



大使が語るリトアニア

駐日リトアニア大使

オーレリウス・ジーカス

いま最注目
のすごい国

リトアニアの魅力

知日派大使が語り尽くす!

- 北欧、西欧、東欧の良さを合わせ持つ
- 経済成長とシンプルな暮らしを両立させるIT先進国
- 杉原千畝と福澤諭吉ゆかりの国
- ソ連からいち早く独立した勇気

駐日リトアニア大使
オーレリウス・
ジーカス



ティムラズ・レジャバ駐日ジョージア大使推薦!

大使が語るリトアニア

オーレリウス・ジーカス

星海社

311



はじめに

25年前、私は金沢大学への留学で初めて日本に参りました。私は自己紹介するとき、いつも名前の次に出身国を言いました。

「初めまして、ジークラスです。リトアニアから来ました」

そうすると、すぐに質問が出てきます。

「え？ り……り……リビアですか？」

「シベリアですか？」

「そ、その国は結局、どこでしょうか？」

1998年当時、8年前に地図に現れた国であるリトアニアを、日本ではほとんど誰も知らなかったのです。

その後、2022年に駐日リトアニア大使として日本に戻った私は、仕事のミッションとしてさまざまなところで、さまざまな方法でリトアニアのことを語り続けています。学校や大学を訪れるほか、商工会議所、ロータリークラブ、ラジオ、テレビ、新聞、SNSなどを通じて我が国の知名度を高めています。

嬉しいことに、2024年の今、多くの日本人は、少なくともリトアニアの名前を知っています。「ヨーロッパの国」「バルト三国の一つ」など、ある程度の知識もあります。リトアニアと縁のある杉原千畝すぎはらちうねの名前もよく出ます。特に、ロシアによるウクライナ侵攻が始まってから、日本人は新たに東欧を再発見し、興味津々です。だって、リトアニアはウクライナととても長い歴史を分かち合っていますからね。

ただし、未だにラトビア、エストニアと間違われやすいし、「リトアニアの言葉って何語でしょう?」「山ってありますか?」「あれ、リトアニアはもうEUに加盟したっけ!？」というような質問をよくいただいています。はい、EUには20年前に加盟しました。

遠い国同士、お互いを知るのは難しいですね。なんなら我が国でも、日本、韓国、中国

を一緒に扱うリトアニア人が多いようです。日本には、黒澤明くろさわあきら 監督の映画のようにサムライとゲイシャが町を歩いていると想像するリトアニア人も少なくないでしょう。

そこで、少しでもリトアニアでの日本の認知を広めるために、2016年から2022年にかけて、私はリトアニア語で三冊の本を出版しました。その一冊目はリトアニアでベストセラーになり、三冊目は「日本への観光客の聖書」と呼ばれています。この度、新しい挑戦として、この『大使が語るリトアニア』が生まれました。リトアニア人が日本語で書いた本として、個人的な思い出や経験も含めて、私を感じるままのリトアニアについてお伝えします。

一般的な国の入門書のように、本書も決まったテーマ（「自然」「歴史」「文化」「現在」などの）の章からなります。でも、決してリトアニアの百科事典ではありません。半分遊びながら学べるリトアニアの雑学です。覚えやすくするために章の中でさまざまなキーワードを使います。文章中のキーワードにご興味があったら、途中で別のページに飛んでも構いません。今回、日本語のそれぞれの仮名（あいうえお）にちなんだ48のキーワードに基づいてこの本を執筆しました。ABC、いろはのようにリトアニアを勉強しましょう。

よろしく願いいたします！

第1章

リトアニアの象徴とアイデンティティ

あ

アイデンティティ タパティース Tapatybe 北欧、西欧、東欧が交わる十字路 14

な

名前 パヴァディニマス Pavadinimas 「雨の国」が名前の由来!? 19

る

ルータ Ruta 国花、国鳥、国木 23

を

リトアニア語 リエトウヴィウーカルバ Lietuvių kalba サンスクリット語と共通点の多い古い言葉 26

ほ

ボール カムオリース kamuolys 第一の宗教となる国技のバスケットボール 29

第2章

リトアニアの宗教と年中行事

41

お

穏やか

Ramus ラムス

リトアニアを象徴する国民性

32

ゆ

勇氣

Drąsa ドラサ

リトアニアのモラ一の姿

37

ろ

ロムヴァ

Romuva

現代に残るリトアニアの古代自然崇拜

42

し

十字架

Kryžius クリージュス

「十字架の国」の無形文化遺産

45

い

イースター

Velykos ヴェリコス

冬の終わりを告げるお祭り

49

よ

ヨハネの日

Joninės ヨニネス

北欧の夏至祭は有名

53

ゑ

ヴェーリネス

Vėlinės

リトアニアのお盆「死者の日」

57

く

クリスマス

Kalėdos カレドス

リトアニアのクリスマスは日本の大晦日おおみそかのよう

60

リトアニアの自然

65

へ 平野 リーグモス Lygumos リトアニアには山がほとんどない 66

も 森 ギリヤ Giria リトアニアは森の国 70

ぬ 沼 ピヤルケ Pelke リトアニアを敵から守った自然の沼 75

ね ネリヤ Nerija ドイツとリトアニアの文化が融合した世界遺産の海岸部 77

き 季節 ミヤトゥーライカイ Metų laikai 寒いだけじゃない！ リトアニアの四季と年中行事 83

さ サウナ ピリテイス Pirtis フィンランドとは違うリトアニア式サウナ 88

第4章 歴史、観光、日本とリトアニアの絆 93

け ケルナヴェ ケルナヴェ Kernavė 一見地味だけどリトアニア最古の時代がわかる世界遺産 95

第5章

リトアニアの食文化

125

た

大公国

Didžioji kunigaikštyste

リトアニアは欧州最大の国だっぞ

98

と

トラカイ

Trakai

3つの城を持つリトアニアの古都

103

ろ

ヴィリニウス

Vilnius

リトアニアの首都にして古都

107

ふ

福沢諭吉

Jukičis Fukudzava

日本で初めてリトアニアの記録を残した人物

111

か

カウナス

Kaunas

ジーカス大使の故郷にしてリトアニア第二の都

115

す

杉原千畝

Čiune Sugihara

日本とリトアニアを結んだ人物

120

や

野生

Laukinis

みんなが森でベリーやキノコを採り、自然に近いものにこだわっている

126

む

麦

Javai

リトアニアの麦はライ麦

130

つ ツエペリナイ Cepelinai とても手間のかかるジャガイモ料理の代表 134

に 乳製品 Pleno produktai リトアニアでは牛は家族!?!? 138

ひ ビーツ Burokelis リトアニアのソウルフードたる野菜 142

は 蜂蜜 Medus お茶にもお菓子にも、キュウリにも?!? 145

の 飲み物 Gerimai ビール文化とウォッカ文化の重なる地 149

第6章 リトアニアの伝統文化と芸術 153

そ 素朴 Paprastas 素朴、シンプル、地味がリトアニアらしマ 154

こ 琥珀 Gintaras リトアニア随一の名産品 157

り リネン Linas リトアニアの衣食住を支える亜麻とリネン 161

第7章

現在のリトアニア

179

わ

藁細工

シムスツヤムケイ、ペルピビケイ
Šiauriniai dirbiniai

世界に広がるリトアニアの藁アート

165

う

歌

ダイナ
Daina

無形文化遺産にして独立の生みの親

168

ち

チュルリョーニス

M. K. Čiurlionis

リトアニアの精神を代表する画家

171

め

メカス

Jonas Mekas

世界で知られたリトアニアの名映画監督

175

み

民主主義

デモクラチヤ
Demokratija

リトアニアは民主主義の伝統が古い国

180

え

エネルギー

エネルギヤ
Enerģija

独立時の教訓からエネルギー独立を目指す

184

れ

レーザー

ラーゼレイ
Lazeriai

ソ連の数少ない良い遺産のひとつ

189

て

デジタル化

スカイトメニザーツィヤ
Skaitmenizacija

IoTとフィンテックに強い国

192

ら ライフ・サイエンス ギーヴィーベス モクスライ
Gyvenes mokslai

人口300万人の国に
1.5万人以上の研究者
197

ま マイノリティ マージユモス Mazumos マイノリティと共存するがリトアニアの伝統
200

せ 世界 パサウリス Pasaulis 世界とつながるために努力するリトアニア
205

あとがき パバイグゾジディス Pabaigos žodis
210

日本で出版されたリトアニアについての参考文献
214

第1章 リトアニアの象徴とアイデンティティ

Lietuvos simboliai ir tapatybė

あ アイデンティティ

タパティベ Tapatybe

北欧、西欧、東欧が交わる十字路

「リトアニアはどこですか？」

日本人に初めて会うたびにこの質問をされます。私はまず「ヨーロッパです」と答えます。次に「ヨーロッパのどこ？」と聞かれて、地理的な位置を説明すると、多くの場合「ああ、分かりました、バルト三国ですね」と反応されます。

バルト三国は、リトアニア・ラトビア・エストニアの3つの国の総称ですね。「リトアニアはバルト三国の一つ」という説明は、日本人には分かりやすいです。ただし、三つの小さい国と一緒に並んでいてややこしく、順番も覚えにくいでしょう。覚えるコツをお教えしましょう。友達から聞いた話では、日本人はアメリカの作家、エラリー・クイーンの「エラリー」で、つまりエストニア、ラトビア、リトアニアという風に北から南までの順番を覚えたりします。一番上にフィンランドも入れたら、「フェラーリ」で覚えやすいですね。

実は、「バルトの国」という言い方ができたのは、20世紀の初めです。当時、ロシア帝国から独立した（フィンランドを含めて）四か国を指す言葉でした。その後、第二次世界大戦後に再びソ連に占領された三つの国のサイズと経済力が似ていたので、ロシア語で「バルト海周辺（露語：Прибалтика）」という概念が生まれました。その後、一緒に「歌いながらの革命（ジグ・ベージ）」を起こして、後に独立を果たしたので、バルト三国という共同イメージが出来上がりました。

本音の話をしてもいいでしょうか。バルト三国の人々は、「バルト三国」という言い方はあまり好きではありません。確かにサイズも位置も似ているし、30年以上前に一緒に独立運動を起こしました。でも、それぞれの国が違う言葉、歴史、宗教を持っています。話し合うときはお互いに外国語である英語で話すしかありません。それを聞いて、多くの日本人が驚きます。同じように、地理があまり分からないリトアニア人も、日本を中国、北朝鮮と韓国と一緒に一括します。「え、中国人と日本人は言葉、違いますか？ でも、同じように見えるんじゃない？ お互いに全く通じない？」とリトアニアでよく言われますよ。

これを聞く日本人は怒るかもしれませんが、同じように、私も、エストニアやラトビア（場合によってはベラルーシやウクライナ）の独立記念日にお祝いの言葉をいただくのは、あ

まり嬉しくありません。それぞれの国に独自の文化やアイデンティティがあるので、ちょっとでも区別していただけると嬉しいのです。

また、現地の人たちにとって「バルト三国」と言えば、「旧ソ連」という意味合いも感じられます。「ああ、旧ソ連の国ですね」ともよく言われますし、時々日本人にロシア語で話しかけられます。確かに50年間、バルト三国を含めて15か国が「ソ連」という刑務所に入っていました。それはすでに30年以上前の過去となっています。それぞれの国は独自の道を歩んで、古い過去を忘れようとしています。だって、今の日本を、「旧大日本帝国」「旧占領国家」と呼ぼうとしないでしょう。ソ連が潰れた時に私は12歳で、暗い過去としてその時を覚えています。娘たちはその時代を想像もできないし、彼女たちにとってロシア語もちんぷんかんぷんの外国語となっています。

歴史が進むにつれて、暗い過去の記憶はなくなります。フィンランドも、だいぶ前から「旧ロシア」というイメージから離れて、現在、「北欧」の国としてのイメージが強くなりました。ソ連から独立したバルト三国も、北欧の民主化（↓180ページ）や福祉などのパターンを見習い、徐々に北欧に近づいてきました。リトアニアと他の北欧の国々に共通するのは、自然、女性のパワー、また生活や環境に対する「穏やかさ」（↓32ページ）でしょう。ほかの北

欧の人々と交流するとき、リトアニアと共通する価値観をよく感じますよ。

ただし、宗教の面で言えば、リトアニアは北欧の文化から少し離れます。北欧、エストニア、ラトビアでは国民の多くがプロテスタントなのに対してリトアニアはカトリックで、

カトリック文化圏で東北の端っこに位置しています。リトアニアは中世からイタリア、オーストリア、チェコ、ポーランドなどのカトリック国のネットワークに参加し、価値や文化を分かち合っています。リトアニアの建築、美術には、イタリア、オーストリア、南ドイツなどカトリック圏のアーティストが多大に貢献したので、町並み、建物などにはその影響が明らかに感じられます。

リトアニア人は、その面で「**西欧の文明**」の一員であることを誇り高く思っています。13世紀（日本では鎌倉時代）に、当時自然崇拜すうはいをしていた（＝野蛮人と思われていた）リトアニアは、西欧と東欧、二つの文明圏の間にありました。当時の支配者は大きな選択をし、文明を——つまり文字、宗教、価値観を——東ではなく西から受け入れることにしました。それ以来、ラテン語とラテン文字、カトリックを 수용し、「**西欧**」の一員

	西 欧	東 欧
文 字	ラテン文字	キリル文字
中世の共通語	ラテン語	古代スラブ語
宗 教	カトリック、 プロテスタント	ロシア正教
建 築	ゴシック>ルネサンス >バロック>古典様式	ロシア正教会など

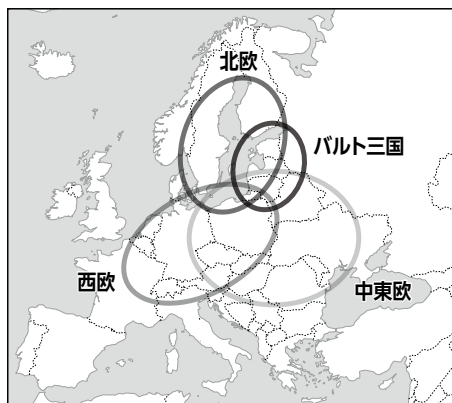
「西欧」と「東欧」を定義する文化

となりました。

リトアニアのもう一つの大事なつながりは、現在のポーランド、ベラルーシ、ウクライナとの関係です。ポーランド・リトアニア同盟国（別名「両民族国家」）は、バルト海から黒海まで及ぶ大きな「中東欧」地域をほぼ500年支配しましたので、言葉、宗教の多様性にもかかわらず、共通の文化が出来上がりました。その例は食文化、文学、クリスマスの伝統等々です。

面白いことに、エストニア人、ラトビア人と会ったリトアニア人は、共通の歴史の話はほとんどできません。せいぜい「ソ連時代は辛かったですね」くらいです。逆に、ポーランド人、ベラルーシ人、ウクライナ人に会うと、歴史の話は湧き起ります。

じゃあ、結局、リトアニアはどこか？



リトアニアが属するさまざまな文化圏

歴史上、「文明の十字路」と言えるほど特別な位置にあるのです。

場合によって、「バルト三国」「西欧」「中東欧」「北欧」など、いろいろな答えがあっても全く間違いではありません。逆に、さまざまな地域の影響を受け、さまざまな国と価値観を分かち合い、仲良くできるのがリトアニアのアイデンティティの特徴でしょう。

な 名前 Pavadinimas

パヴァディニマス

「雨の国」が名前の由来!?

「リトアニア」という名前が初めて日本語で書かれたのは、おそらく18世紀末でしょう。1789年に福知山藩主にして蘭学者でもあった朽木昌綱が出版した「泰西図説」は、ヨーロッパ総論、ヨーロッパ各国の地図などから成り、その中に「リタウエン」という国も載っています。これがリトアニアです。この時、リトアニアは独立した「リトアニア大公国（↓98ページ）」として存在し、現在のリトアニアに加え、現ベラルーシの国土も占めています。

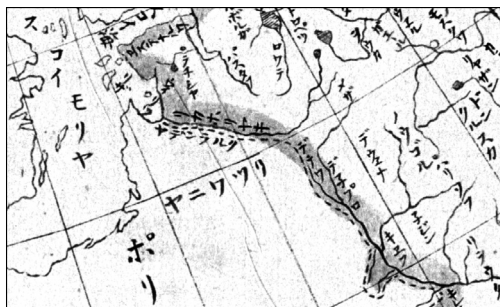
した。この地図には、首都のヴィリニユス、カウナスなどの都市名も載っています。

この「リタウエン」は「Litauen」で、現在もオランダ語、ドイツ語などで使われているリトアニアの名前のカタカナ表記です。

面白いことに、リトアニアの名前は、さまざまな言葉でかなりヴァリエティに富んでいます。オランダ、ドイツ系の「Litauen」と並び、英語の「Lithuania (リスエイニア)」、スラブ系の「Litwa (リトワ)」、フィン系の「Leedumaa (レートゥマー)」などがあります。

現在の日本語の呼び方である「リトアニア」は、ラテン系の Lituania (リトゥアニア) に由来し、初めて「リツワニア」として言及されたのは1794年に出版された『北槎聞略』ほくさぶんりやくに掲載された地図です。その後、「リスワニア」などの形を経て、現在の「リトアニア」になりました。

リトアニア人は、自分の国を「Lietuva (リエトゥヴァ)」と言います。この名前の由来は諸説あり、定説は残念ながらありませんが、最も分かりやすいのは「雨の国」です。接尾辞の「va」は古来の地名を表す



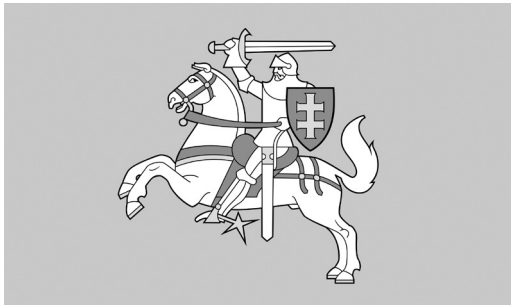
1794年『北槎聞略』の中でリトアニアが言及されている箇所

もので、現在の地名でもよく見られます。一方、頭の「Lietus」はリトアニア語で雨を意味します。ただし、この「雨の国」の説は、学問的な証拠はなく、おそらく正しくないでしょう。

「リトアニア」の名前が初めてヨーロッパの歴史的な資料に見つかるのは、1009年（日本では平安時代）です。もう千年以上、この名前は我が国の最も大事な象徴です。

一方、もう一つの大事な象徴であるリトアニア国章もとても古くて、中世から使われています。14世紀（日本では室町時代）以来、リトアニア大公国のシンボルとして使われたのは、赤地に白い騎士です。この騎士は剣で国を守っていて、ヴィーティス(Vytis)という特別な名前です。この紋章は現在もリトアニアの国章として使われています。面白いことに、500年もリトアニア大公国の一部となっていた現在のベラルーシも、一時期、似たような国章を使っていました。

ヴィーティスを使った国旗は、リトアニア大公国の国旗として中世、近世にわたって長く使われて、現在は歴史的な国旗として知られています。18世紀末に大公国が独立を失っ



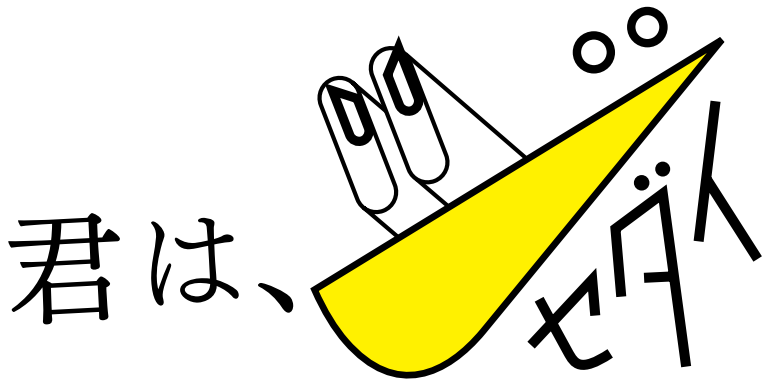
リトアニアの「歴史的な国旗」は現在も大変好まれて、「三色旗」と並んでよく使われます。公式な国旗ではなくても、大統領官邸を含む公の場でも使用されます。



三色旗の色の意味は、上から太陽（黄色）、森（緑）、独立のために流された血（赤）です。

リトアニアの国歌は、「民族の歌」（Tautiška giesmė）と言います。1898年に有名な詩人のV・クディルカ氏によって作られ、1919年から国歌として使われています。

てロシア帝国の一部となった際に国旗の使用を禁じられ、100年以上が経った1918年にリトアニアが再び国家を復元したとき、新しい三色旗（Trispalvė）が生まれました。後高くはためいています。



君は、

ジセダイ

何と闘うか？

<https://ji-sedai.jp>

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、**行動機会提案サイト**です。読む→考える→行動する。このサイクルを、困難な時代にあっても前向きに自分の人生を切り開いていこうとする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ

ジセダイイベント

著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月開催中！ 行動機会提案サイトの真骨頂です！

ジセダイ総研

若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

星海社新書試し読み

既刊・新刊を含む、すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

行動せよ!!!